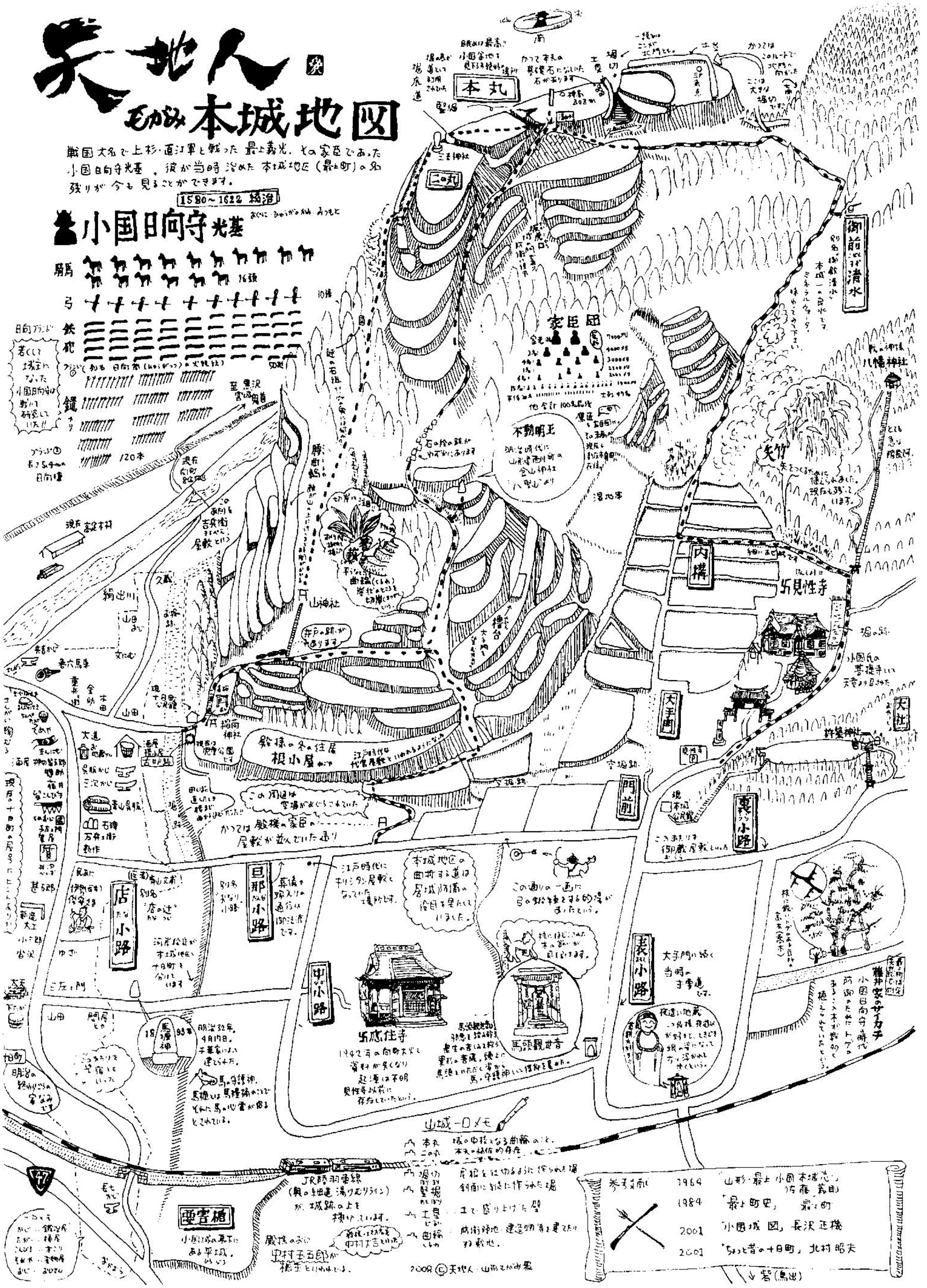
天地人 もがみ本城地図

戦国大名で上杉・直江軍と戦った 最上義光。その家臣であった小国日向守光基。彼が当時治めた本城地区（最上町）の名残りが今も見ることができます。



1580～1622 統治
小国日向守光基
おぐに・ひゅうがのかみ・みつもと
騎馬
16頭
弓
鉄砲
鑓
120本
本丸
二の丸
三吉神社
竪堀
堀底道
標高 308m
土塁
堀切
御前清水
家臣団
不動明王
八幡神社
矢竹
内構
見性寺
大手門
大社
鈴築神社
門前
裏小路
根小屋
殿様の冬の住居
山神社
稲荷神社
古町跡
絹出川
至 黒沢 羽前
井戸の跡があります
この周辺は 空堀がめぐらされていた
かつては殿様の家臣の屋敷が並んでいた通り
店小路
旦那小路
中小路
表小路
本城地区の曲折する道は 居城防衛の役目を果たしていました。
この通りの一画に 弓の鍛練をする的場があったという。
大手門に続く 当時の主要道です。
この通りを 御蔵屋敷といった
馬頭観世音
見応住寺
夜這い地蔵
藤井家のサイカチ
要害楯
JR陸羽東線（奥の細道 湯けむりライン）が城跡の上を横切っています。
中村五郎が

山城一口メモ

- 本丸　城の中核となる曲輪のこと。
- 二の丸　本丸の補佐的存在
- 堀切（ほりきり）　尾根を仕切るように作られた堀
- 竪堀（たてぼり）　斜面に縦に作られた堀
- 土塁（どるい）　土で盛り上げた壁
- 曲輪（くるわ）　防衛陣地・建造物等を建てたりする敷地。

参考文献		
	1964	「山形・最上 小国本城志」 佐藤義則
	1984	「最上町史」 最上町
	2001	「小国城図」 長沢正機
	2001	「ちょっと昔の十日町」 北村昭夫

2008 ©天地人・山形もがみ衆